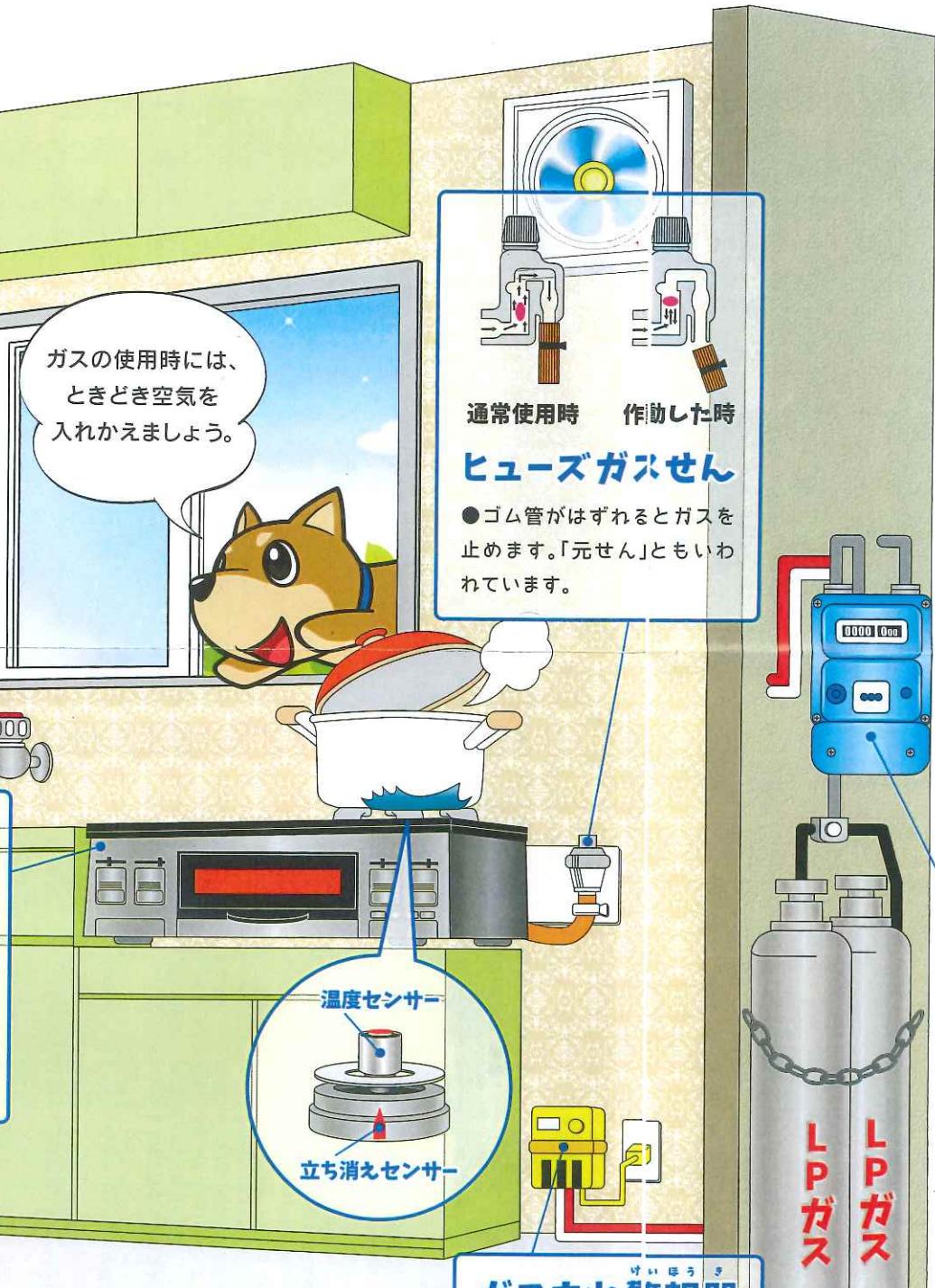
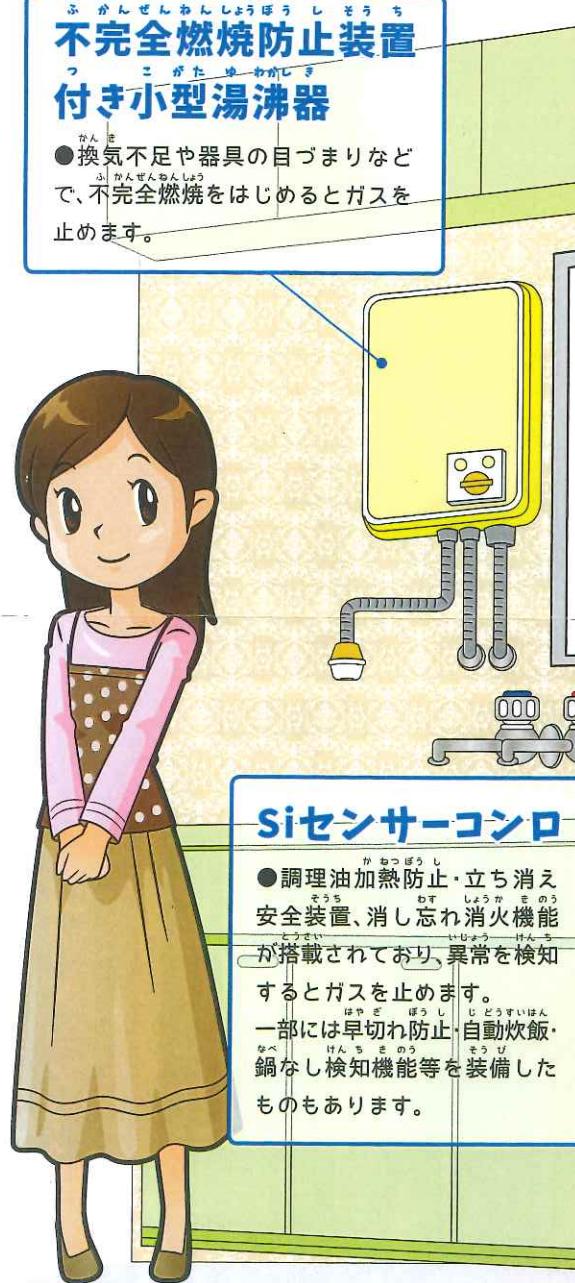


LPガスを、正しく使いましょう。



■ガス器具■

- 立ち消え安全装置の付いたガス器具には、コンロ・瞬間湯沸器・ふろがま・ストーブなどがあります。
- 新しいガス器具は、使う前に、LPガス販売店にわんらくてんけんしてもらいましょう。
- コンロなどは、煮こぼれして炎の出るところがつまるで、炎の形がふぞろいになります。月に1回はそうじをしましょう。
- いつも青い炎で使いましょう。

●よい燃え方

●よくない燃え方

このような燃え方はよくないので空気を入れかえたりコンロの調整をしましょう。

もしもガスがもれたら

ガスもれに気がついたら、あわてないで次のことを実行してください。

1

まず、器具せん・ガスせん(元せん)をしめましょう。(地震や火災のときは、あわてずに、容器のバルブもしめましょう。)



2

とびらや窓や戸を広くあけ、ざぶとんなどでガスを追い出しましょう。



3

屋内で火を使うのをやめましょう。換気扇のスイッチや電気のコンセントにさわらないようにしましょう。



4

販売店に連絡し、点検がすむまで、ガスを使わないように注意しましょう。



みんなも知つておこう LPガスの性質

● LPガスとは

LPガスは、油田地帯・石油精製工場・石油化学工場などでつくられます。^{せいせい} LPガスは、容器に入れてはこび、便利な家庭燃料として全国各地で使われています。^{わしりょう}

● 容器の中では液体、外では気体

LPガスは圧力をくわえて、液体にして容器の中につめてあります。容器のバルブをあけると、気体になって出てきます。LPガスが空気中に出ると、液体だったときの約250倍の体積になります。

Liquefied 液化された
Petroleum 石油の
Gas ガス

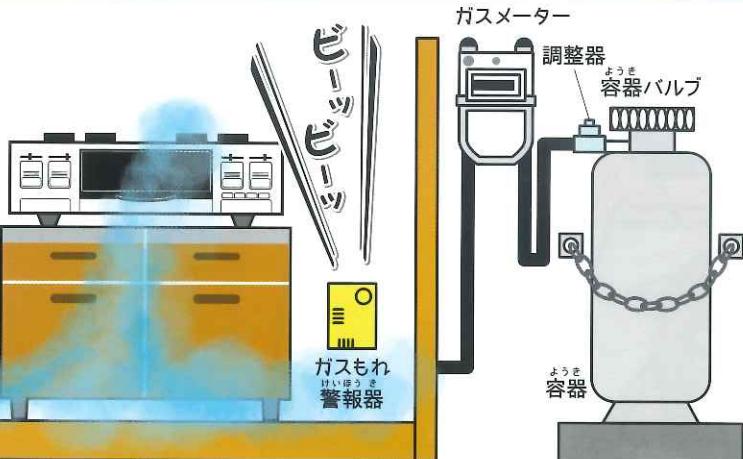


250倍



● 空気よりも重い

LPガスは空気の約1.5倍の重さがあるので、空気中でもれると、低い所にたまります。



● ガスもれ警報器

LPガスには、もれてもすぐわかるように、タマネギのくさったような「におい」がつけてあり、いざというときにブザーや声でガスもれを知らせるガスもれ警報器をつけておくと安全です。ガスもれ警報器は、みどり色の検定合格証のついたものをえらびましょう。



気をつけよう LPガスの事故

LPガスの事故の原因は、ガスもれによる爆発や火災、不完全燃焼による中毒、酸欠(酸素欠乏)などがあります。下の表は、それぞれの事故原因と、正しい使い方をまとめたものです。

ガスもれ	事故原因	正しい使い方
	ゴム管のゆるみ、はずれ、ひび割れなど。	ゴム管は器具のゴム管取付口・ガスせん(元せん)の赤い線まで、しっかり差し込み、ホースバンドでしっかりと止め、ぬけないようにしましょう。またゴム管は古くなると、ひびがはいりやすいので早めに取りかえましょう(LPガス用のゴム管を使ってください。)
	器具せん・ガスせん(元せん)のしめ忘れ。または不完全なしめ方など。(器具せんをしめても、ガスせんをしめていないと、思わぬことでゴム管がはずれたり、ネズミがかじったりしてガスがもれることがあります。)	使ったあとは、必ず器具せん・ガスせんを完全にしめます。ねる前や外出するときは、ガスせんがしまっているかどうかよく確かめましょう。しめるときは、せんが止まるまで、しっかりしめましょう。
	使っていないガスせんをまちがって開く。	使っていないガスせんは、まちがって開くことがあるので必ずゴムキャップやガスせんカバーをつけましょう。
	風や煮こぼれなどによる立ち消え。	ガスを使っているときは、その場をはなれないようにしましょう。
	点火ミス	火がついたかどうか目で確かめましょう。
中毒	一酸化炭素中毒 LPガスには、有毒な一酸化炭素はふくまれていますが、燃やすとき(ガスを使用するとき)に酸素が不足して、不完全燃焼すると、一酸化炭素を出し非常に危険です。	<p>①ときどき窓などをあけて、新しい空気と入れかえましょう。 ②換気扇を回しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none">とくにふろがまには煙突をつけ、ふろ場には空気の取り入れ口をつけましょう。湯沸器・ふろがま・ストーブなどは、なるべく部屋の空気を使わない型(バランス式・強制給排気式)や、不完全燃焼防止装置付きなどにしましょう。

● 地震や火災のときは

地震や火災が起きたときは、あわてずに、まずガスせん(元せん)をしめ、容器のバルブを右に回してしっかりとしめましょう。

